

あゆみ通信

VOL. 145

あゆみの会(真宗大谷派大阪教区第2組同朋の会推進員連絡協議会)会長 細川克彦
広報 本持喜康

第48回近畿連区研修会ご案内

「近畿連区」は、大阪教区を始め、近畿の京都教区、長浜教区と山陽教区、四国教区の推進員組織の集まりで、毎年合同研修会を持ち、聞法と交流を目的にしています。今回は京都教区主催です。テーマは、「この時代の中を、真宗門徒として生きる」と題して、滋賀県で開催されます。(1泊2日)

日程 5月24日(月)~25日(火)

会場 滋賀県おごと温泉

琵琶湖グランドホテル

内容 勤行、研修(法話)、座談
講題 只今、人間仮免許練習中

~今、コロナ新型コロナウイルスに問われること~

講師 栖雲深泥師(樹洩陽舎舎幹)

参加費 14000円(3~4人室)

申込 参加ご希望の方は、あゆみの会細川克彦会長(06-6779-5349)へ、3/15までにご連絡ください。(あゆみの会から参加助成があります。)以上。

迷いの身に気づく



仏・法・僧を、三つの宝物「三宝」といいます。宝と言いましても、私たちを支えてくださる宝です。お金は確かに大事です。けれども真実に支えるものではないでしょう。

私のご門徒さんに、八十歳になられるおばあさんがおられます。お連れ合いが亡くなってその大きな屋敷を全部お金に換えて、大きなマンションのてっぺんに住んでおられます。ところが後に財産を譲っていくお子さんがおられないのです。それで結構なところに住んでいても「寂しい、寂しい」とおっしゃっているのです。お金はどうでもいいとは言いません。でも、それは私たちを本当に支えるものにはならないのです。やがてそれはみんな置いていかねばなりません。

大切なことは、本当にこの人間に生まれてよかった、「ありがとう」「おかげさま」と毎日を生きられるような帰依処をもっているかどうかです。支えるものを間違ったら、この人生が一体どこに立ちどこへ帰っていくのかわからず、ぐるぐると回っているうちに、結果は寂しく空しい人生になっていくのではないのでしょうか。実は我々、みんなこの環状線に乗っているのです。乗っていない人は一人もおりません。しかし「環状線に乗っているなあ」と、気づかせてくださるのが南無阿弥陀仏の教えなのです。「迷っているなあ」と

気づいたらさっと元に帰るところがあるのが南無阿弥陀仏です。行きづまったら必ずさっと元へ戻る、帰らせていただく立脚地が必ずどんな人にもあります。如来の弘誓願を聞信すれば、どれだけ迷っていてもいいんです。安心して迷っていきける。仏さまは迷うなどはおっしゃっておられません。「迷うておるぞ」と気づかせてくださる。この迷いを機縁にしてさっと立ち返ることができる。そしてまたこの現実の娑婆世界のいろいろな問題を担って、命ある限りいきいきと、それぞれ与えられた大事な仕事、その人にしかできないその仕事を担っていく。仏様のご恩を知り、ご恩に報い応えて生きていく道をお互い見つけていきたいと思ひます。

(藤井善隆「仏さまのお弟子になる一帰敬式を受けて始まる歩み」東本願寺出版より)テ

第2組間法会の会場決まる

1月26日(火)の組内会で、第2組間法会の会場が決まりました。コロナ禍で、変更もあり。

○4月21日(水)

会場 稱念寺(天王寺区夕陽丘町)

講師 大橋恵真師(18組遠慶寺)

○5月26日(水)

会場 専行寺(天王寺区堂ヶ芝)

講師 新田修巳師(4組正業寺)

○6月12日(土)

会場 法山寺(阿倍野区天王寺町)

講師 宮部渡師(15組西稱寺)

○7月24日(土)

会場 宗恩寺(天王寺区四天王寺)

講師 新田修巳師

○8月28日(土)

会場 光照寺(天王寺区上汐)

講師 廣瀬俊師(17組法観寺)

○9月27日(月)

会場 佛足寺(天王寺区北河堀町)

講師 新田修巳師

起きて困ることは起きないことにする

先月亡くなった戦史研究家作家の半藤一利氏の言葉である。

氏は自らの体験から「二度と戦争をしてはならない」と、生涯をかけて主張されていた。

表題は、正しくは「日本人は起きて困ることは起きないことにする」。そして、「起きうることも起きたら困るので、考えず、何となくその日を過ごすこと」にと。

それは、第2次世界戦争を始め、今年26年を迎えた阪神大震災や、10年を迎える東日本大震災、そして福島原発事故や数々の災害を考えても分かる気がする。

多くの政治家や官僚が使う「想定外」という言葉は、このために使われるようだ。氏はその言葉を通して、我々を戒め、そして、考えなさいと示唆されているように思う。

改めて、宗祖親鸞聖人の教えに学ぶ者は、この言葉を噛みしめて、自身がどうするべきかをこの機会に考えることが大事な

紙上法話

大無量寿経の仏道①

延塚知道先生

出世の本懐



延塚知道先生

私たちが教える親鸞聖人が、一番大切になさった経典が「大無量寿経」です。その他にも「観無量寿経」「阿弥陀経」という経典があります。浄土の三部経という経典ですが、なかでも特に大事になさったのが「大無量寿経」という経典です。今日はその「大無量寿経」という経典には、どのようなことが書かれているのだろうかということをお話していきたいと思ひます。

大学ではありませんので、講義というか、法話というか、なるべく優しくしかし大事なことはきちっとした了解を話したいと思ひております。

「大無量寿経」という経典は、出世本懐経ともいわれています。それはどんな意味でしょうか。出世というのは、この世にお釈迦様がお出ましになったこと。

それで、お釈迦様が子の娑婆世界へ人間のお姿をして、何のために出てこられたかということ、それをお釈迦様ご自身が述べられている経典なのです。

この「大無量寿経」という経典でお釈迦様は、「私は阿弥陀如来の本願を説くために、この世に生まれてきたんです」と、はっきり言われています。そうするとお釈迦様が、お釈迦様の言葉でご自分で、この経典を説くために私は生まれてきたんです」と。だから「出世本懐経」というのは、仏教のたくさんある経典の中でも、特に大事な経典なんです。

「私がこの世に生まれてきたのは、この『大無量寿経』の本願を説くためだ」と、こういう風に言われているんだか

ら、間違いないわけですね。

ところが、問題があるのですよ。「出世本懐経」というのが一つだったらいいんだけど、一つじゃない。二つある。それが大問題。

一つは、今言ったように親鸞聖人が大事にされた「大無量寿経」。もう一つは「法華経」です。

お釈迦様が説かれた経典というのは、たくさんあるでしょう。大乘の経典でも「大無量寿経」、「法華経」の他に「涅槃経」「華嚴経」それから「維摩経」とか、いっぱい経典がある。その中で「私は説くために生まれてきた」と言われた経典が、二つある。「大無量寿経」と「法華経」という経典。これにもやはりお釈迦様ご自身が、「私はこの『法華経』の一乗ということをお説くために生まれてきたんです」と、ちゃんと言われている。

そうすると、二つあったらおかしいね。それもお釈迦様が嘘をつくはずないから、どういう風に理解したらいいか。どういう風に考えたらいいかということが、とても難しい問題なんです。

仏教の歴史を、よく見てください。仏教の歴史の中で浄土の仏教と、それから「法華経」を中心とする、日本だったら比叡山の延暦寺。これらはずっと戦いになつてくるでしょう。親鸞聖人は流罪になられたし、これは朝廷が流罪を起こしたけれども、訴えたのは興福寺とか比叡山だからね。

そうするとどうしても、比叡山と浄土の仏教が戦いになつて、ずっときておる。それは単なる偶然でそうならんじゃなくて、仏教の歴史の中でこの二つが「出世本懐経」だからです。

ところがお釈迦様は、嘘をつかれるはずはないから、どちらも「出世本懐経」だと思ひただけでもどういう風に理解したらいいのか、とても難しい。

訃報憶想寺門徒会員の石本章さん(石本治代さんのご主人)が、1月17日にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

曾我量深という先生は、この「大無量寿経」というのは、木で言うと根っこだと。根本のところ。ところがこの「法華経」というのは、字のとおり、花を説いている。木があつて、花がパッと咲いて、そのきれいな花ね。

だからこの花も根も大切、根がなきゃ花が咲かない。だから、どっちも一本の木には違ひないけれども、根の方を説いたのが「大無量寿経」。花の方を説いたのが「法華経」という経典である。だからどっちも仏教のお釈迦様の「出世本懐経」である。どっちも大事だと。

とくにあの、根の方を説いた経典というのは、どういったらいいかね、根っこは土の中にあつて見えないから、あるかどうかわからんやろ。そやけれど土の中では、地上に伸びる木よりも二倍か三倍ぐらい大きな根が張つとる。

土の中で根を張つとるってというのは、何のことかいうたら、私たちのことや。凡夫のことなんや。何か、小松という街はそんなに大きなとこじゃないし、あんまり有名でもないね。

だけど昔は加賀の国、百姓の持ちたる国で、大したもんやつた。そうやって、先輩たちは生きてきた。大地を這うようにして生きてきた。仏教をずっと伝えてきた。

これはほんとびっくりした。先輩たちがいのちを捨てて、念仏を守つてきたんやと思ひわ。こんなもう、信じられんわ。僕のとこの本堂は小さなもんやけど、それを守るんは並大抵の苦勞じゃないと思ひわ。(次号へ続く)

事務局

延塚知道先生大谷大学名誉教授が平成26年6月石川県小松市の本光寺の光雲研修会にて辞世された